

第一問 次の文章は、いじめについて消費社会の拡大との関わりから論じたものである。これを読んで、後の問い

(問1～9)に答えよ。なお、出題の都合上、本文を一部変更した箇所がある。

^A 学校の規律は、生産の規律と結びついている。決められた時間割のなかで授業を受け、「勤勉」の道徳を身につける。

それは、資本主義的労働に不可欠である。資本主義システムにおける労働は、決められた時間内で、どれだけ商品を生産できるかにかかっており、そのためには、労働者は効率よく働くことが求められる。それは、誰にでもすぐにできるような行為ではない。そこで、まず資本主義的生産に従事できるように、学校で子どもを訓練するのである。学校においても、企業においても、一定の成果が上がるまで努力を怠らないことが要求される。また、成果は一定の期間内で上げなければならぬ。限定された期間内で、要求された成果を上げることが、資本主義的生産における時間原則である。

これに対して生産者は、消費者ができるだけ早く、大量に消費することを望む。^(注)クレジット、ローンが発達したのも、消費者が欲しい商品をすぐに手に入れることができるようになるためである。これは、明確に定められた期限までに成果を上げる、生産における時間原則とは異なる。生産においては、未来に目標がおかれているため、未来は現在から直線的に^{ひろ}拡がっている。ところが消費においては、未来を現在に引き寄せ、未来を現実のなかに実現させてしまう。

(中略)

こどもの場合、未来を現在に引き寄せるといふ消費の時間原則だけに縛られやすい。なぜなら、職業に従事している者、いわゆる「おとな」とは異なり、こどもは純粋な消費者だからである。^Bこどもは、消費社会における理想的な行為主体であるといってもよい。労働者は生産に関わっているのに対して、こどもは生産には関わることはない。あるいは、こども

はおとなのなかでも、失業者や非正規労働者に近い存在であるといってもよい。彼らは失業しても、消費はせざるをえないからである。バウマンは、非正規労働者のように標準的な消費ができない者を「不完全な消費者」と呼ぶが、非正規労働者だけではなく、こどものように生産と直接関わらない存在の方が、より完全な消費者に近づくのである。

また、ゲームセンターやカラオケボックスでは、こどももおとな同様の「コキヤク」として扱われる。こうした消費の場は、匿名性を保証する。個人であれ、少人数の集団であれ、消費の場所は原則として、そこに参入しようとする者の社会的な存在証明を要求しない。また、どのような社会的地位にいるかも問題にしない。商品の購入に必要な金銭を持っていれば、消費の場所に参入できるし、ウィンドーショッピングということばに示されるように、買うつもりがなくとも消費の場所に立ち入ることは可能である。

消費の時間原則だけに縛られるようになると、「現在」においてすぐに欲望が実現できない場合、暴力を用いても、その欲望をかなえようとする。それが、いじめにつながるのである。それでは、なぜ暴力の被害者が自殺してしまうのか。この点を理解するために、消費社会について考えてみよう。

高度消費社会では、消費と消費を成立させている文化が、人間の生存において不可欠なものとなる。しばしば「サブカルチャー」などと呼ばれる文化事象は、けっしてサブ²副次的なものではなく、消費社会には欠かすことができない。

消費文化を支える価値を考えるうえで、もう一度、先に引用したブログに注目してみよう。青年は、「帽子もかわいいのを二つゲット」と記述し、二八〇円ショップで帽子を二個買ったことを報告している。ここで青年が用いている「かわいい」という形容詞に特に着目する必要がある。というのは、かわいいという形容詞が、日本に限らず、高度消費社会一般を理解するうえで重要なことばだからである。それは、「新しい」「きれい」に続く、消費社会の美意識を構成する三つめの判断軸となる。

(中略)

かわいいの大きな特徴は、「キモかわいい」「ブスかわいい」のように、反対の意味をもつことばを包含していく点である。かわいいには、反対語が存在しないのである。そして、反対語がないかわいいはあらゆるヒト、モノの形容詞になりうる。

しかし同時に、かわいいと一言発するだけで、あらゆる批判の可能性は絶たれ、かわいいということばが構築する磁場のなかで微笑まざるをえないような状況をつくり出す。この点で、かわいいは一見無垢に見えながら、そうであるがゆえの権力効果を発揮する。事実、反対語が存在しないのは、かわいいということばが、あらゆる対立軸を無にする効果があることを示している。恣意的に選ばれたかわいいものは、それが恣意的な選択であったかどうかという疑問を付されることなく、かわいいものとして認証される。それによって、あらゆる暴力的抵抗を封印しているようにみえる。

初めて本格的に「かわいい」を論じた四方田犬彦は、『かわいい』論の最後で、ポーランドのオシユフェンチム(オシユ)の強制収容所の部屋の壁に、「かわいい」一匹の子猫やこどもたちの絵が描かれている点に注目する。四方田はこの絵を、「それ（残虐行為）が、エンカツエンカツに進行するように、加害者の側からその無垢にして純真な似姿を犠牲者にむけて差し出しているのだという。四方田の指摘は、かわいいが孕む権力を剔出てきしゅつしている。

少なくとも、かわいいということばがある種の麻酔効果を及ぼすことだけは、たしかである。それは、時間感覚を麻痺させる。それは、未来への希望をもつことを封印する。四方田が言うように、かわいい子猫やこどもたちの絵が麻酔効果を及ぼし、強制収容所では未来への希望をもつことを断念させられるのかもしれない。死を待つだけの未来そのものが、畏怖の対象となるのである。

□、かわいいものの奥底には不気味な力が潜んでいることを強調するだけでは、かわいいという形容詞が現代社会においてもつ意味を十分にとらえたとはいえない。かわいいは、「キモかわいい」や「ブスかわいい」、また「カッコかわいい」(カッコいいけどかわいい)のように、あらゆるものをかわいいという磁場のなかに取り込むことで、多様性を包摂

する方向性に向かうこともあるからである。子猫やこどもだけでなく、ライオンや高齢者もかわいい。いかなるものであっても、かわいいと評価される可能性はあるのである。「かわいいの下における平等」が存在するといってもいい。一見取るに足らぬものでさえ、かわいいものになりうるのである。フランス語版ウィキペディアでは、行政や自衛隊のポスターにまで、アニメのキャラクターのようなかわいい表現が見られる点について、奇妙な現象であると書かれている。

かわいいということばは、女子若年層が頻繁に利用し、広まっていったものである。仮に、かわいいが多様性を包摂する論理を内包し、国家組織の内部にまでそれが浸透しつつあるとすれば、それは、知識人や国家などがもち出してくる「共生」のような価値とは、その性格を異にしている。

かわいいという形容詞は、消費社会の進展とともに浸透している。^(注5) ジャン・ボードリヤールは、消費社会において商品が欲求を満たすものではなくなり、記号と化してしまう点を指摘した。商品は記号体系を構成するだけであり、商品の現実的な実体や特性はもはや存在しない。消費社会は自動的に、現実を参照することのない記号体系のなかで、新たな消費記号を生み続ける。^c 消費者が消費するのは、現実からかけ離れた記号にすぎないのである。これは一見わかりにくい議論であるが、ハローキティのキャラクターグッズはその典型であろう。消費者は、次から次へと生み出されるキティグッズ² 記号を消費するのである。

ただし、記号の消費といっても、まったく無意味なものをわざわざ消費するはずがない。記号を読み取るコード^(注6) が、消費には必要なのである。また、消費はさまざまな「文化」と結びついている。この文化は国民国家と結びついていないため、国境を越えて至るところに拡がる。消費行動のための文化コードは、国家とはまったく別のところで生成しているのである。したがって、ある国家に固有の規範を身につけていなくとも、消費文化のコードは体得可能であるし、また消費社会を生き抜くためにはそれは不可欠でさえある。つまり、消費はより深く人間の実存に関わっている。いかに消費すべきかという問いは、いかに生きるべきかという問いに直結するのである。商品の記号体系が構築されていくなかで、し

だいに女性の美的判断基準であったかわいいが、記号体系を支えるコードとなり、消費社会そのものを確立させていったのである。

かわいいは、商品としてのモノとヒトの関係を構築しながら、秩序を生み出す。しかし、このかわいい秩序は、すべての秩序維持がそうであるように、暴力の噴出を押さえ込んでいる。「かわいいがる」には、暴力を行使するという意味がある。また、「ブスカawaii」や「キモかわいい」から「かわいい」を取り去れば、「ブス」「キモ（い）」だけが残る。こうしたことばがはじめにおいてしばしば使われることは、よく知られている。学校も、地域も、かわいい秩序を徹底すれば、暴力は封印されるであろう。教室をハローキティで飾ることを推奨すれば、はじめはなくなるかもしれない。しかし、学校の規律は別の価値に基づいている。スポーツなどのクラブ活動や運動会などの行事は、いずれもかわいさではなく、身体の鍛錬を通じて管理されている。また、授業や試験も同じように、身体の鍛錬を必要としており、それは生産の規律と結びついている。

中学生は、生産と消費という二つの異なる論理のあいだで揺れ動き、それが暴力をサソウ。いじめ集団は、一方では消費に強い関心を示し、仲間内の特定の者から金銭を奪ってでも消費空間に参入しようとする。他方で、単独で特権的に消費しているようにみえる者を、学校の論理に基づいて「処罰」しようとする。

脱中心化する風景も同様に、生産と消費の二つの論理に分裂した世界の様相を映し出す。学校や工場のように生産の論理に基づく場所と、ゲームセンターやロードサイド店舗など消費の場所が混在しているからである。ただし、こうした風景のなかで、しだいに消費の場所の方が空間的に拡大していく。また、脱中心化する風景では、自然素材から成る風景のなかに、合成素材の空間記号が浸食していく。これは、自然素材の生命の世界に合成素材でできた壊れにくい世界が拡大していくことである。生命の流動性がしだいに感じられなくなり、消費空間における時間感覚を麻痺させる疑似ユートピアが拡がっていくのである。

^D消費空間は、死を感じさせない。死が感じられない世界で、生物と無生物の区別もあいまいになる。かわいいということばは、モノもヒトも形容できる。(中略)「遊び感覚」で暴行できるのは、その相手をほとんどモノとしかとらえないからである。また、暴行がいかなる結果を生むかということに、考慮が至らないからである。いじめが起こる集団の成員は、死への感覚が麻痺してしまっているのである。

(荻野 昌弘わきの まさひろ『開発空間の暴力―いじめ自殺を生む風景―』による)

- (注)
- 1 クレジット——信用貸しによる販売や金融。特に、商品を後払いで販売すること。
 - 2 バウマン——ポーランド出身の社会学者(一九二五～二〇一七)。
 - 3 先に引用したブログ——典型的な消費者として紹介されたネットカフェ難民のブログ。
 - 4 オシュフェンチム——ポーランド南部の都市で、ドイツ語名はアウシュヴィッツ。
 - 5 ジャン・ボードリヤール——フランスの思想家、社会学者(一九二九～二〇〇七)。
 - 6 コード——記号と意味を結びつけ、メッセージとして成立させるための規則。
 - 7 脱中心化——筆者独自の用法。歴史的に一度は社会的に中心とされた場所が求心力を失い、都市の周辺部に人が集まるようになり、どこが社会の中心なのかが分かりにくくなること。

問1 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のa～dのうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

アが 1、イが 2、ウが 3

ア コ|キヤク

- | | | | |
|----------|-----------|----------|-----------|
| d | c | b | a |
| コ ジ成語を学ぶ | 会 社のカイコ 録 | 論 よりシヨウコ | コ ヨウ契約を結ぶ |

イ エン|カツ

- | | | | |
|------------|-------------|-------------|--------------|
| d | c | b | a |
| カ ツゼツをよくする | 明 朗カイカ ツな性格 | 文 章をカ ツアイする | 文 部科学省のカン カツ |

ウ サ|ソウ

- | | | | |
|--------------|------------|--------------|--------------|
| d | c | b | a |
| 国 家間のユウ ワを図る | ユウ コウ関係を結ぶ | 大 河を渡るユウ ラン船 | 私 立大学をユウ チする |

問2 波線部「恣意的に」の本文中におけることばの意味として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解

答番号は **4**

- a 様々な候補から無差別に
- b 合理的判断により客観的に
- c 論理的必然性がなく自分勝手に
- d 思いつくまま手あたり次第に

問3 空欄 に補うことばとして最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選べ。解答番号は **5**

- a なぜなら
- b しかし
- c そして
- d または
- e つまり

問4 傍線部A「学校の規律は、生産の規律と結びついている。」とあるが、これはどのようなことを言おうとしている

のか。その説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **6**

a 学校で時間割に従って授業を受けることは、決められた時間内で一定の成果を上げるまで努力する資本主義システムの労働に準じており、学校は生産の時間原則に支配されているということ。

b 学校で時間割に従って授業を受けることは、資本主義的労働で期間内に商品を生産する努力に等しく、学校は効率よく生産できる労働者になるための訓練をする場だということ。

c 学校の規律に従って「勤勉」の道徳を身につけることは、資本主義社会で商品を期間内に生産する精神を養うことであり、学校では生産のための道徳が正しいとされているということ。

d 学校の規律に従って「勤勉」の道徳を身につけることは、効率よく働いて商品を生産するために必要な訓練であり、学校は資本主義システムで成り立つ社会の基礎になっているということ。

問5 傍線部B「こどもは、消費社会における理想的な行為主体である」とあるが、これはどういうことか。その説明と

して最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **7**

- a こどもはゲームセンターなどの消費の場ではおとな同様に扱われるが、おとなとは違い生産に直接関わる立場にないため、消費のみを行う消費者であるということ。
- b こどもはゲームセンターなどの消費の場ではおとな同様に扱われるが、おとなとは違い労働に携わる義務がないため、失業する心配のない完全な消費者であるということ。
- c こどもはゲームセンターなどの消費の場ではおとな同様に扱われるが、おとなとは違い労働者としての社会的身分がないため、消費によってのみ社会に参入できる消費者であるということ。
- d こどもはゲームセンターなどの消費の場ではおとな同様に扱われるが、おとなとは違い生産の規則に従う必要がないため、欲望に忠実に消費を行う消費者であるということ。

問6 傍線部C「消費者が消費するのは、現実からかけ離れた記号にすぎない」とあるが、これはどういうことか。その

説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **8**

- a** 本来、消費とは寒さをしのぐために服を買うように、現実的な欲求に基づいたものだったが、現在の消費社会では商品は記号で管理され、消費者は実物の機能を確認せずに購入するのが一般的になっているということ。
- b** 本来、消費とは寒さをしのぐために服を買うように、現実的な欲求に基づいたものだったが、現在の消費社会では社会的地位を誇示するために高級ブランド品を身につけるなど、文化的な欲求と結びついているということ。
- c** 本来、消費とは食欲を満たすために食べ物を消費するように、現実的な欲求に基づいたものだったが、現在の消費社会ではパッケージのキャラクターなど、商品の内実に関係のない側面が消費されているということ。
- d** 本来、消費とは食欲を満たすために食べ物を消費するように、現実的な欲求に基づいたものだったが、現在の消費社会では商品の機能ではなく見た目を重視するなど、商品を選ぶ基準が多様化しているということ。

問7 次を示すのは、本文で説明されている「かわいい」の機能について生徒たちが意見を述べている場面である。本文

の趣旨に合致しないものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **9**

a 生徒A——「キモい」は暴言だけど、「キモかわいい」は褒め言葉に使われるから嫌だと思っても反論しづらいね。「かわいい」は一見無垢な言葉だけど、当然の抵抗も封じてしまう権力効果があるんだ。

b 生徒B——「かわいいがる」に暴力をふるうという意味があるという話でハツとしたよ。「かわいい」に反対語が存在しないというのは、「かわいい」自体が相反する意味も含んでいくということでもあるんだ。

c 生徒C——どんなものでも形容できて、あらゆる価値観が肯定されるというのも「かわいい」の持つ力だよ。これからの時代には、社会にもっと多様な「かわいい」ものがあふれるかもしれない。

d 生徒D——ハローキティは「かわいい」の代表例だね。キティグッズだからという理由で使わないボールペンなどもつい買ってしまう。記号という無意味なものの消費が資本主義経済を活発にしているんだ。

問8 傍線部D「消費空間は、死を感じさせない。」とあるが、これはどういうことか。本文全体を踏まえ、その説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **10**

a 消費社会では消費の欲求が満たされないと暴力に結びつく上に、記号の消費が一般化した現代では人間までも記号的に感じるようになるため、生と死の区別があやふやになり暴力を加速させるということ。

b 生産は未来に向かって着実に努力するしかないが、消費はより多く消費するために借金によって未来の資本を現在において使うことができるため、知らず知らずのうちに自らの寿命を縮めることになるということ。

c 消費社会に結びついたコードである「かわいい」には暴力を封印する権力効果があり、消費空間ではこの力によって暴力が封印されているため、生命は安全に守られているということ。

d 消費空間は本来生産に携わるおとなの場であるが、こどもも立ち入るのが可能なほど匿名性が守られた場であるため、個人から個性が奪われ生きる意味も失われる空間であるということ。

問9 本文の内容に合致するものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **11**

- a** こどもたちは消費の欲求に流されやすいため、それに起因するいじめの増加を食い止めるためには、拡大する消費空間にこどもたちが立ち入れないようにする必要がある。
- b** いじめと自殺の問題には、消費社会が発達したことでヒトとモノの区別が薄れてしまい、こどもたちの中で生命の実感が薄れてしまったことが背景にある。
- c** 学校で暴力がふるわれる背景には、こどもたちが消費者として生きている現実があるため、消費社会に結びついた規律を学校空間に取り入れることがいじめの防止に有効である。
- d** 学校は効率的な生産ができるようになるための場であり、こどもたちの本性である消費者としての生き方と矛盾しているため、学校の規則ではいじめの問題を抑止することはできない。

第二問 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

飛行機は画期的なイノベーションだった。人類はこれまでには考えられなかった距離を短時間で移動できるようになった。それが人類に多くの幸福をもたらしたことは事実だろう。しかし、飛行機によってもたらされたのは幸福だけではない。二度の世界大戦では数多くの戦闘機が投入され、多くの惨事をもたらした。空爆によって都市が丸ごと破壊され、多くの無差別の虐殺に利用されることになった。

飛行機だけではない。機関銃、戦車、毒ガス、核兵器など、最先端のテクノロジーが戦場に投入され、それによってかつてない規模の被害をもたらされた。

人々を統治する技術にもイノベーションが起きた。二〇世紀に出現した全体主義^(注1)は、戦争のスイコウ^アのために国民の私生活全てを動員し、私権を制限し、個人の利益よりも国家の利益を優先するものだった。国家は、その国の経済活動を全体として管理・調整しなければなくなると同時に、国民の感情に働きかけ、自ら体制に協力するよう煽動^{せんとどう}しなければなくなった。このような体制を作り上げるために、権力の側に属する人間はかつてないほど計算的な理性を働かせなければならなかっただろうし、そのために情報通信技術をはじめとするさまざまな新しいテクノロジーが活用されるようになった。

技術は人類に幸福をもたらさずだった。技術を発達させればさせるほど、人類は悲惨さを免れるようになるはずだった。しかし、二〇世紀に明らかになったことは、技術がむしろ人類に対して未曾有の破局をもたらすということだった。

なぜそんなことが起きてしまったのだろうか。

第二次大戦後、^(注2)フランクフルト学派のキシユ^イとして台頭した哲学者のテオドル・アドルノとマックス・ホルクハイマーは、その理由を次のように説明した。^(注3)啓蒙思想^{けいもうしきょう}において人間は理性の力によって社会を進歩させ、自然への隷属

から解放され、幸福を実現できると考えられていた。しかし、実際には啓蒙は人間を社会という「第二の自然」に隷属させることになった。私たちが社会の進歩だと考えているものは、結局のところ、この第二の自然への隷属をさらに深めていく過程に他ならない。私たちは、啓蒙が進めば進むほど、社会が進歩すればするほど、そこから逃れることができなくなり、それがもたらす悲惨さに深くはまり込んでいく。その帰結として立ち現れたのが、二度の世界大戦における破局なのだ。

人間が「第二の自然」に隷属するということは、人間自身が人間の力によって支配される、ということである。「啓蒙が事物に対する態度は、独裁者が人間に対するのと変るところはない。独裁者が人間を識るのは、彼が人間を操作することができるかぎりである」。例えば全体主義において、人間を理解するということは、人間を操作可能にするということと同義だった。どんな風に働きかけたら人間が権力に服従し、自発的にカタンするかわかるかを知ることが、人間を知ることという意味でいた。これは、実験という技術的な働きかけによって自然を解明しようとする態度と、通底しているのである。こうして、「自然の模倣」から「自然の支配」へと変化した人間の技術は、現代に至って、「人間の支配」とでも呼ばれるべき事態を明らかにした。もちろん、人間がどれほどテクノロジーによって自縄自縛に陥り、大きな過ちを犯し続けるのだとしても、自然の自己修復能力がそれを帳消しにしてくれるのなら、未来世代には何も影響しない。しかし、そうした期待は夢物語に過ぎない、ということが、近年明らかになりつつある。

化学者のパウル・クルツツェンは、地質学における新しい年代を指す概念として、「人新世」という概念を提唱した。この概念はテクノロジーと人間の関係を考えるための重要なキーワードとして大きな注目を集め、各所で議論を巻き起こしている。

これまで、現在が属しているのは約一万年前から続く「新生代第四紀完新世」であると考えられてきた。約一万年前から言えば、長い氷河期が終わりを告げ、現在に至る地理的条件が形作られた時期だ。日本では広葉樹の森林が誕生し、秋に

なると一面にドングリが落ちるようになった頃にあたる。このドングリを料理するために、人々は土器を作り出し、やがて縄文文化が形成されることになる。私たち現代人もそうした縄文人たちと同じ地質学的年代に生きている、と見なされているのである。

これに対して「人新世」という概念は、現代人が生きている時代を、その地球環境の条件において、新生代第四紀完新世から区別しようとするものだ。両者を断絶させているのは、人間の産業に由来する物質が、地球環境の一端を形成しつつあるという事態である。

例えば、プラスチック、コンクリート、ガラスなどは、自然に生分解することがなく、地層にそのままの姿で堆積されていく。それらは砂や岩と同じように、人工物が地層を構成するようになり始めている。こうしたことは縄文時代には全く起こり得なかったのだ。

このような事態はいつから始まったのだろうか。人新世をめぐる議論では、一般的にその分水嶺は産業革命の時期に引かれている。この頃、人類のテクノロジーは急速に発展し、大量の人工物が生産され、また大量に廃棄されるようになった。その過程で大量のエネルギーを消費し、大量の資源を開発することが必要になった。おびただしい数の人工物がこの世界に撒き散らされることになった。そのような活動が地球環境のあり方そのものを変えてしまったのである。

人新世の科学的な妥当性をめぐる議論にはまだ決着がつかない。とはいえ、そこには「自然の支配」という技術観の一つの帰結が示されている。前述のように、近代以前の自然観において、自然は人間を凌駕する圧倒的な力を持ち、人知を超えた自己修復能力を持っていると考えられていた。しかし、人新世において、人間は自然が生分解することのできない人工物を作り出し、しかもそれが地球環境そのものを更新している。それは、自然が人間の活動による影響を修復できなくなっているということ、つまり人間の産業活動が自然の自己修復能力を超えてしまっている、ということの意味する。そうである以上、自然はもはや人間を凌駕する圧倒的な存在などではない。むしろ人間の活動によって傷つけられ

得る、有限で、ある意味で脆弱ぜいじやくなものとして捉えられなければならない。

人新世において、現在世代が自然に対して与えた影響は、自然によって修復されず、未来世代にまで継承される。したがって現在世代が自然を傷つければ、それは、その自然とともに生きることになる未来世代を間接的に脅かすことを意味する。このようにして現在世代による未来世代への脅威という事態が成立するのだ。

経済思想家の斎藤幸平は、主として(注6)マルクスを参照しながら、人新世における資本主義社会が未来世代の犠牲の上に成り立っている、と指摘する。

マルクスは、資本主義が抱える根本的な矛盾を指摘し、資本家による労働者の搾取を批判したことで知られている。しかし、斎藤によれば、資本主義において搾取されるのは労働者だけではなく、地球環境そのものでもある。(注7)「人間を資本蓄積のための道具として扱う資本主義は、自然もまた単なる掠奪りゃくだつの対象とみなす」。人新世という概念の出現はそうした「掠奪」の一つの帰結に他ならない。

では、そうした自然の搾取はどのように引き起こされるのだろうか。資本主義の大きな特徴は、それが「自らの矛盾を別のところへ転嫁し、不可視化する」ものでありながら、(注8)「その転嫁によって、さらに矛盾が深まっていく泥沼化の惨状が必然的に起きる」ということである。こうした「転嫁」には、矛盾を別の手段によって置き換える技術的転嫁、矛盾を別の場所に置き換える空間的転嫁があるが、もう一つの別の転嫁のあり方として語られるのが、矛盾を別の時代に置き換える時間的転嫁だ。斎藤は、気候変動を例に取りながら、次のように述べる。

化石燃料の大量消費が気候変動を引き起こしているのは間違いない。とはいえ、その影響のすべてが即時に現れるわけではない。ここには、しばしば何十年にも及ぶ、タイムラグが存在するのだ。そして資本はこのタイムラグを利用し、すでに投下した採掘機やパイプラインからできるだけ多くの収益を上げようとするのである。

こうして、資本主義は現在の株主や経営者の意見を反映させるが、今はまだ存在しない将来の世代の声を無視すること、負担を未来へと転嫁し、外部性を作り出す。将来を犠牲にすることで、現在の世代は繁栄できる。

だが、その代償として、将来世代は自らが排出していない二酸化炭素の影響に苦しむことになる。こうした資本家の態度をマルクスは、「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」と皮肉つたのだ。

温室効果ガスを大量に排出しながら産業活動が続けることは、私たちが生きる地球ではそもそも不可能である。それは最初から成り立たない営みである。なぜなら地球は、少なくとも人間が生きていける環境としては、そうした活動を受け入れることができないからだ。つまりここには、地球で活動をしたい人間と、人間の活動を受け入れられない地球との間で、矛盾が生じている。矛盾がある以上、本来なら、人間は温室効果ガスを排出する活動をやめるべきである。そうであるにもかかわらず、現在においてそれが成り立っているかのように見えるのは、現在世代が「負担を未来へと転嫁」し、自分が作り出している矛盾の「ツケ」を、未来世代に押しつけているからである。

斎藤はこうした態度を、マルクスの言葉を引用しながら、「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」と表現する。今日において、この言葉はもはや単なる比喩ではない。なぜなら、気候変動が海面上昇を引き起こし、それによって津波をはじめとする自然災害の激甚化をもたらすことは、すでに指摘されていることであるからだ。斎藤は次のようにも述べている。

環境悪化の速度に新技術が追いつかなければ、もはや人類になす術はなく、未来の世代はお手上げだ。当然、経済活動にも負の影響が出る。つまり、将来世代は、極めて過酷な環境で生きることが余儀なくされるだけでなく、経済的にも苦しい状況に陥る。

もちろん、斎藤の主張に従うなら、資本主義が引き起こす矛盾の時間的転嫁は、気候変動だけに留まらない。放射性廃棄物、ゲノム編集、さらにその他のさまざまなテクノロジーも、未来世代に負担を強いることで、現在世代に繁栄をもたらすものであり得る。

(戸谷 洋志『未来倫理』による)

- (注)
- 1 全体主義——全体があるから個が存在するという論理のもと、国家の利益を優先させる政治体制。
 - 2 フランクフルト学派——ドイツのフランクフルトの社会研究所で活躍した学者グループ。高度な文明社会が第二次世界大戦を引き起こしたことを鑑み、啓蒙的であることは野蛮状態を乗り越えたものではないことを説いた。
 - 3 啓蒙思想——一七〇一―一八世紀のヨーロッパで盛んになった合理主義の考え。教会の権威を否定し、「神中心主義」から「人間中心主義」への転換を導く考え方。
 - 4 「啓蒙がである」——マックス・ホルクハイマー、テオドール・W・アドルノの共著『啓蒙の弁証法―哲学的断層』からの引用。
 - 5 分水嶺——物事の方角性が決まる分かれ目のたとえ。
 - 6 マルクス——カール・マルクス(一八一八―一八八三)。ドイツの哲学者、経済学者。『資本論』の著者。
 - 7 「人間を」とみなす——斎藤幸平『人新世の「資本論」』からの引用。
 - 8 「自らの不可視化する」——注7に同じ。
 - 9 「その転嫁を起きる」——注7に同じ。
 - 10 「大洪水よ、我が亡き後に来たれ!」——マルクスが『資本論』で引用。旧約聖書にあるノアの箱舟伝説が念頭に置かれている。ここでの「大洪水」とは、人々の墮落を見た神が人類への罰として起こしたとされる洪水のことである。

問1 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群のa～dのうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

アが12、イが13、ウが14

ア スイコウ

- | | |
|---|----------------|
| a | 気温のスイイを記録する |
| b | 本文の一部をバツスイする |
| c | ケンスイ運動で上半身を鍛える |
| d | クーデターはミスイに終わった |

イ キシユ

- | | |
|---|--------------|
| a | 開会式でコツキを揚げる |
| b | 体育祭でキバ戦が行われた |
| c | ゾウキ移植手術が行われた |
| d | シンキ一転して物事に挑む |

ウ カタン

- | | |
|---|---------------|
| a | タンセイを込めて作った料理 |
| b | 準備バンタンに整える |
| c | けが人をタンカで運ぶ |
| d | ダイタンなデザインの服 |

問2 波線部①・②の本文中におけることばの意味として最も適当なものを、次の各群のa～dのうちから、それぞれ一

つずつ選べ。解答番号は①が15、②が16

① 自縄自縛

- a 投げやりになり、自分で自分の身を粗末に扱うこと
- b 自分の利益のために、自分一人で計画を立て実行すること
- c 自分の生み出したもののせいで、自由に振る舞えないこと
- d 自分の悪い行いの報いを自分が受けること

② 凌駕する

- a 超えてそれ以上になる
- b 一方的に支配する
- c 新しく作り変える
- d 思い通りに操る

問3 傍線部A「人々を統治する技術にもイノベーションが起きた。」とあるが、筆者はその結果どのようなことが起き

たと述べているのか。最も適当なものを、次のa～eのうちから一つ選べ。解答番号は **17**

a 科学分野で起きたような技術革新が人々を統治する技術にも起き、情報通信技術が社会に浸透して人々がその恩恵を享受できるようになった。

b 科学分野で起きたような技術革新が人々を統治する技術にも起き、権力者による国民感情への計算的な働きかけに対して国民の側も理性的に対応しなければならなくなった。

c 人間に幸福をもたらさずだった技術革新が人々を統治する技術にも起き、情報通信技術が活用されるなかで人々の個人情報を守られなくなった。

d 人間に幸福をもたらさずだった技術革新が人々を統治する技術にも起き、経済活動における自由競争が激化したことで貧富の差が拡大した。

e 人間に幸福をもたらさずだった技術革新が人々を統治する技術にも起き、国家全体をひとつにまとめる管理体制の構築が可能になったことで戦争による惨事をもたらされた。

問4 傍線部B「啓蒙は人間を社会という『第二の自然』に隷属させることになった」とあるが、これはどのようなことを

を言おうとしているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は18

a 理性の力によって人間は科学技術を進歩させ自然への隷属から解放されたが、科学技術は人間を脅かす技術へと応用され、人間は進んだ技術を持つ者に支配されるようになったということ。

b 理性の力によって人間は自然を科学的に解明し自然への隷属から解放されたが、理性の力は人間を国家規模で操作する技術にも利用され、人間が服従する対象が自然から社会に変わったということ。

c 理性の力によって人間は科学的進歩をとげ自然への隷属から解放されたが、この進歩は独裁者に人間から理性を奪う方法を理解させ、独裁者の出現を促してしまったということ。

d 理性の力によって人間は科学技術を活用し自然への隷属から解放されたが、その技術は人間を社会から解放するに至らず、人間はより高度な社会制度に依然として縛られているということ。

問5 傍線部C「地質学における新しい年代を指す概念として、『人新世』という概念を提唱した」とあるが、筆者はこの

概念が提唱された理由をどのように捉えているのか。その説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **19**

- a テクノロジーが急速に発展した結果、大量の人工物が生み出され、生分解されない物質が地層に堆積されるなど、人間の生み出したものが自然の自己修復能力を超えて地球環境そのものを更新しているから。
- b テクノロジーが急速に発展した結果、生分解されない大量の廃棄物が生み出され、それが地球上の他の生物に悪影響を与えるなど、人間が地球の生態系を根本から変えてしまったから。
- c テクノロジーが急速に発展した結果、資源の開発や消費によって、大量の温室効果ガスが排出されたことで地球全体の気温が上昇し、人間の活動が氷河期を終わらせたといえるから。
- d テクノロジーが急速に発展した結果、おびただしい数のプラスチックやコンクリートが生産され、それらの人工物によって利便性の高い生活を送ることにより、人間がかつてないほどの豊かな生活を享受しているから。

問6 傍線部D「資本主義において搾取されるのは労働者だけではなく、地球環境そのものでもある」とあるが、この「搾

取」についての説明として最も適当なものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は 20

- a 地球環境の搾取は、未来世代のためという建前で行われているが、実際には現在世代がその繁栄を享受するた
めのものである。
- b 地球環境の搾取は、発展途上国の経済的發展を支えるという名目で行われ、先進国が発展途上国の資源を過剰
に消費するものである。
- c 地球環境の搾取は、資源の埋蔵量がはつきりとわからないことを口実に無理な開発を継続し、将来的に資源の
枯渇を引き起こすものである。
- d 地球環境の搾取は、人間の産業活動の影響が地球環境の変化として直ちに現れないことを利用し、負担を未来
に押しつけるものである。

問7 傍線部E「この言葉はもはや単なる比喩ではない」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適当な

ものを、次のa～dのうちから一つ選べ。解答番号は **21**

a 「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」とは、現在世代の自分たちの利益への執着が、大洪水という形で未来世代に影響を及ぼすことを予言的に表現したものであったが、現在世代は実際に水害によって被害を受けるなど、予言が的中し経済活動に負の影響を受けているということ。

b 「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」とは、現在世代が未来世代に押しつけている負担から目を背けようとする態度を風刺的に表現したものであったが、急激な気候変動などによって実際に大洪水が起きていることを考えれば、今の世代はすでに未来世代に属しているといえるということ。

c 「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」とは、現在の利益に執着し、未来世代に不利益を押しつけながらも生産活動を止めようとしないうちに現在世代の姿を皮肉的に表現したものであったが、現在世代は産業活動の代償といえる災害を現実のものとして恐れなければならなくなっているということ。

d 「大洪水よ、我が亡き後に来たれ！」とは、現在の繁栄ばかりを求め、気候変動の影響については未来世代が解決できると根拠がないのに信じている現在世代の姿を批判的に表現したものであったが、すでに現在世代が環境悪化を解決するための方策を打ち出す必要に迫られているということ。

問8 次に示すのは、本文の内容について五人の生徒たちが話し合っている場面である。本文の趣旨に合致しないものを、

次のa～eのうちから一つ選べ。解答番号は **22**

a 生徒A——技術にも様々なものがあるんだね。飛行機の開発などの科学技術だけではなく、政治家が国民の心をつかむ社会的な手法に関わるものについても、筆者は技術のひとつとして論じていたよね。

b 生徒B——人間が技術を向上させて、いいことが起きたわけではないよ。二度の世界大戦はその象徴的な出来事だといえるね。イノベーションが悲惨な戦争を生み出してしまったんだ。

c 生徒C——産業革命によって、便利なものがたくさん作れるようになっただけではなく、資源の大量消費が進んで、自然が破壊された。これからは自然と共存する考え方が必要だよ。

d 生徒D——先進国の繁栄のために発展途上国が犠牲になっている問題があるけれど、これは本文に出てきた「空間的転嫁」に当てはまるね。これに加え、未来世代に負担を押しつける「時間的転嫁」もあるんだね。

e 生徒E——現在世代が未来世代に「ツケ」を押しつけているのは、気候変動の問題だけではなく、持続可能な社会を実現して、未来世代に負担をかけないという倫理観が、現在世代には必要だよ。